

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東北財務局長
【提出日】	平成25年11月14日
【四半期会計期間】	第39期第3四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）
【会社名】	株式会社倉元製作所
【英訳名】	KURAMOTO CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 鈴木 聡
【本店の所在の場所】	宮城県栗原市若柳武鎗字花水前1番地1
【電話番号】	0228(32)5111(代表)
【事務連絡者氏名】	経営管理部長 柴田 哲
【最寄りの連絡場所】	宮城県栗原市若柳武鎗字花水前1番地1
【電話番号】	0228(32)5111(代表)
【事務連絡者氏名】	経営管理部長 柴田 哲
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第38期 第3四半期連結 累計期間	第39期 第3四半期連結 累計期間	第38期
会計期間	自平成24年 1月1日 至平成24年 9月30日	自平成25年 1月1日 至平成25年 9月30日	自平成24年 1月1日 至平成24年 12月31日
売上高(千円)	6,819,850	5,862,592	8,888,994
経常利益(千円)	426,591	197,200	409,721
四半期(当期)純利益(千円)	449,150	263,002	367,334
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	458,075	302,208	380,596
純資産額(千円)	3,328,445	3,553,174	3,250,965
総資産額(千円)	12,566,951	11,820,783	12,220,955
1株当たり四半期(当期)純利益金 額(円)	27.82	16.29	22.76
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	26.5	30.1	26.6

回次	第38期 第3四半期連結 会計期間	第39期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年 7月1日 至平成24年 9月30日	自平成25年 7月1日 至平成25年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額(円)	13.41	7.22

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税及び地方消費税(以下「消費税等」という。)は含まれておりません。

3. 第38期第3四半期連結累計期間、第38期及び第39期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当社グループは、過年度より抜本的な経営体質の改善及び収益基盤の強化を継続実施しており、当第3四半期連結累計期間においては、その効果があらわれた結果、第1四半期連結累計期間の損失を補い、営業利益220百万円、経常利益197百万円を計上するに至っており、収益構造の改善及びキャッシュ・フローの安定化が引き続き図られています。その一方で、取引金融機関に対する借入金の返済猶予の状況は継続しており、取引金融機関によって期限の利益の確保が短期にとどまっている状況となっております。これにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

そこで、当社グループは、当該状況を解消するための対応策として、ますます収益構造及びキャッシュ・フローを安定化すべく経営体質のさらなる改善を推し進めるとともに、それらを反映した事業計画を策定し、これに基づく借入金返済計画について取引金融機関からの同意を得られるように協議しております。その結果、全ての金融機関から返済計画に対する一定の同意が得られております。

以上を踏まえ、収益構造及びキャッシュ・フローの安定化と取引金融機関からの一定の同意が得られていること等を総合的に勘案した結果、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成25年1月1日～平成25年9月30日）におけるわが国経済は、アベノミクス、日銀のデフレ対策、円高の是正等により、緩やかながら景気回復が続きました。

このような環境の中、当社グループの〔ガラス基板事業〕は、スマートフォンやタブレット端末への過剰なる成長期待と実際の伸長との差に加え、業界のグローバル競争の更なる激化により受注が軟調に推移いたしました。また、〔精密研磨布事業〕は、パソコンの需要低迷等に伴うハードディスクドライブの在庫調整により、受注は伸び悩みました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、5,862百万円（前年同四半期比14.0%減）に、営業利益は220百万円（同56.1%減）に、経常利益は197百万円（同53.8%減）に、四半期純利益は263百万円（同41.4%減）となりました。

〔ガラス基板事業〕

ガラス基板事業においては、スマートフォン・タブレット端末の市場拡大により基板ガラスの研磨加工及びタッチパネル用成膜加工の受注は不安定ながらも伸張したものの、グローバル競争の激化と新規商品のリリースが当初予測とのズレがあり、パネル加工の受注が減少し、売上高は3,942百万円（前年同四半期比11.6%減）に、セグメント利益は245百万円（同12.8%減）となりました。

〔精密研磨布事業〕

精密研磨布事業は、在庫調整が長引き受注が伸び悩みました。この結果、売上高は1,778百万円（前年同四半期比20.3%減）に、セグメント利益は123百万円（同63.5%減）となりました。

〔その他事業〕

その他事業は、産業用機械製造販売等であります。同セグメントにおいては、石英事業から撤退した影響により、売上高は201百万円（前年同四半期比57.4%減）に、セグメント損失は173百万円（前年同四半期セグメント損失は83百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べて400百万円減少し、11,820百万円となりました。

流動資産は、現金及び預金、受取手形及び売掛金の減少などにより422百万円減の4,154百万円に、固定資産は、投資有価証券の時価の上昇などにより22百万円増の7,666百万円となりました。

負債は、借入金の返済、役員退職慰労引当金の取崩などにより702百万円減少し、8,267百万円となりました。

純資産は、四半期純利益の計上に伴い利益剰余金の欠損が縮小したため、302百万円増加の3,553百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、182百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況について

1 [事業等のリスク] に記載しております。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	33,700,000
計	33,700,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成25年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	16,143,170	16,143,170	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	16,143,170	16,143,170	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日	-	16,143,170	-	4,885,734	-	5,525,381

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 800	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 16,139,500	161,395	-
単元未満株式	普通株式 2,870	-	-
発行済株式総数	16,143,170	-	-
総株主の議決権	-	161,395	-

（注） 「完全議決権株式（その他）」の欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が800株（議決権の数 8個）含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 （％）
株式会社倉元製作所	宮城県栗原市若柳 武鎗字花水前1-1	800	-	800	0.01
計		800	-	800	0.01

（注） 上記のほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが実質的に所有していない株式が100株（議決権の数 1個）あります。

なお、当該株式数は上記 「発行済株式」の「完全議決権株式（その他）」に含まれております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,449,149	1,141,902
受取手形及び売掛金	¹ 2,200,237	¹ 2,115,252
商品及び製品	117,602	165,049
仕掛品	268,615	253,464
原材料及び貯蔵品	276,866	204,188
繰延税金資産	219,431	211,476
その他	45,360	63,152
貸倒引当金	320	410
流動資産合計	4,576,942	4,154,075
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,336,209	2,247,732
機械装置及び運搬具(純額)	1,446,743	1,438,400
土地	3,458,305	3,458,305
その他(純額)	109,111	106,709
有形固定資産合計	7,350,369	7,251,148
無形固定資産	78,433	80,350
投資その他の資産	² 215,209	² 335,209
固定資産合計	7,644,013	7,666,707
資産合計	12,220,955	11,820,783
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	549,727	495,053
短期借入金	4,655,422	4,484,104
1年内返済予定の長期借入金	352,340	270,440
未払金	447,108	570,208
未払法人税等	62,100	18,972
営業外支払手形	42,857	28,424
その他	155,315	187,105
流動負債合計	6,264,871	6,054,308
固定負債		
長期借入金	1,973,020	1,873,244
繰延税金負債	17,901	39,021
退職給付引当金	105,481	115,218
役員退職慰労引当金	506,339	99,827
その他	102,375	85,988
固定負債合計	2,705,117	2,213,300
負債合計	8,969,989	8,267,608

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,885,734	4,885,734
資本剰余金	6,335,992	6,335,992
利益剰余金	8,003,598	7,740,596
自己株式	411	411
株主資本合計	3,217,717	3,480,720
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	33,248	72,454
その他の包括利益累計額合計	33,248	72,454
純資産合計	3,250,965	3,553,174
負債純資産合計	12,220,955	11,820,783

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
売上高	6,819,850	5,862,592
売上原価	5,443,583	4,740,240
売上総利益	1,376,267	1,122,351
販売費及び一般管理費	872,896	901,381
営業利益	503,370	220,970
営業外収益		
受取利息	1,381	1,215
補助金収入	62,281	83,605
その他	27,571	34,197
営業外収益合計	91,233	119,018
営業外費用		
支払利息	146,492	125,201
その他	21,520	17,586
営業外費用合計	168,013	142,788
経常利益	426,591	197,200
特別利益		
固定資産売却益	-	17,163
投資有価証券売却益	-	6,019
役員退職慰労引当金戻入額	-	74,036
補助金収入	135,037	-
特別利益合計	135,037	97,219
特別損失		
固定資産売却損	-	403
固定資産除却損	596	834
減損損失	30,629	-
たな卸資産評価損	24,620	-
特別損失合計	55,846	1,237
税金等調整前四半期純利益	505,782	293,182
法人税、住民税及び事業税	63,849	22,525
法人税等調整額	7,217	7,654
法人税等合計	56,631	30,180
少数株主損益調整前四半期純利益	449,150	263,002
四半期純利益	449,150	263,002

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	449,150	263,002
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,925	39,206
その他の包括利益合計	8,925	39,206
四半期包括利益	458,075	302,208
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	458,075	302,208

【会計方針の変更】

(減価償却方法の変更)

当社グループは、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年1月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、これによる損益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
受取手形割引高	610,000千円	128,530千円

2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
投資その他の資産	100,891千円	100,314千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
減価償却費	512,209千円	466,896千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)3
	ガラス基板	精密研磨布	計				
売上高							
外部顧客への売上高	4,461,144	2,131,602	6,592,747	227,102	6,819,850	-	6,819,850
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	100,488	100,488	245,164	345,653	345,653	-
計	4,461,144	2,232,091	6,693,236	472,267	7,165,503	345,653	6,819,850
セグメント利益又は損失()	280,971	338,264	619,235	83,821	535,414	32,044	503,370

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、石英事業、産業用機械事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 32,044千円は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)3
	ガラス基板	精密研磨布	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,942,684	1,735,343	5,678,027	184,564	5,862,592	-	5,862,592
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	42,901	42,901	16,501	59,402	59,402	-
計	3,942,684	1,778,244	5,720,928	201,066	5,921,994	59,402	5,862,592
セグメント利益又は損失()	245,076	123,299	368,375	173,167	195,208	25,762	220,970

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、産業用機械事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額25,762千円は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	27円82銭	16円29銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	449,150	263,002
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	449,150	263,002
普通株式の期中平均株式数(株)	16,142,290	16,142,290

(注) 前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月11日

株式会社倉元製作所
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

代表社員
業務執行社員 公認会計士 小笠原 直 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 木村 直人 印

業務執行社員 公認会計士 藤田 憲三 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社倉元製作所の平成25年1月1日から平成25年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社倉元製作所及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれておりません。